

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3164

電池と電気

関西支部長
寿栄松 憲 昭 (昭26卒)

数年前、北イタリアの美しい湖畔にある街コモで、欧州の電池メーカーの団体と会議をもったことがある。このコモは絹織物の産地で観光地という位の小さい町であるが、電池の発明者アレッサンドロ・ボルタの生れた土地で、小さいながら立派な円形のボルタ博物館がある。そして電池のエンジニアにとっては原点ともいえる一八〇〇年に実験した有名なボルタのバイル電池が展示されており、大いに感激したことを覚えている。19世紀の初め発電機が発明されるまでは、電気に関する研究は、すべてこの電池を使って行われ、水の電気分解やエルステッドの電磁石、ファラデーの電磁誘導の法則

が発見され、電気工学の基礎が築かれ、電圧の単位ボルトになったことはよく知られていることである。たしかイタリアの一〇、〇〇〇リラ紙幣に印刷されているのはボルタの肖像とボルタ博物館の建物だったと思う。

ところで一八〇〇年のボルタの電池が生れてから20年近い年月がたつて、電気化学的に化学と電気エネルギーを直接変換する電池の技術はほぼ成熟したといわれており、昭和26年に卒業した私達でも、既に電気の教室では電池の講義はなかつたし、工業化学の教室で開いた岡田辰三先生の電気化学の講義のなかでも、ほとんど触れられなかつたように思う。当時電池と

いえば、二酸化マンガンと亜鉛を組合せたマンガン乾電池と、充電のできる鉛蓄電池以外にはほとんど作られていなかった。その電池がここ20年ばかりの間に大きく変身した。新しい発想、新しい材料をもとに、次々と新しい組合せを用いた電池が生れるようになった。活性で軽量な金属リチウムを使いこなす工夫、導電性プラスチックや水素吸蔵合金といった新しい材料の登場の他に、電極は固体、電解液は液体で、常温で使うといった電池の常識を超えた新しい構成などが実用化されるようになってきた。その結果、現在実用化されている電池を単位重量、容積当り貯えられる電気エネルギーで比較すると、この20年間で数倍に向上した。

電池は従来からそれ自体が最終製品として使われることはなく、電気エネルギーを貯えた一部品として機能してきた。ここで例えばコードレスの通信機器やAV機器を考えてみると、この10年ばかりの間に、エレクトロニクスの進歩の代表とされるLSIの集積規模は64Kビットから4メガビットと100倍近く密度が増えたのに対し、急速に進歩したとされる小形の民生用電池では、新しい電極材料が導入されたにもかかわらず、そのエネルギー密度は3倍程度に増加

したにすぎない。その結果これらの機器に占める電源以外の部分に極めて小さく、軽く、かつ安価になってきたが、電池はそれほど小さくならず、そのウエートは著しく増大した。今や電池が機器開発の死命を制するまでいわれるようになった。エネルギー変換を行なう電池の性能向上にある限界があるのに対し、情報変換を行なう電子部品が指数函数的に性能が向上して、結果として電気の地位が向上したのは何とも皮肉なことである。このような傾向は自動車の分野でも見られる。主として始動用として使われている自動車用バッテリーの自動車重量に占める割合は1%程度とみられるが、今環境問題から脚光をあびている電気自動車では、動力用バッテリーは少なくとも15%程度は積む必要がある。また情報化社会を支えるための信頼性の高いバックアップ電源には、産業用電池は不可欠と再認識されている。このように集積回路、液晶と並んで、電池の技術がキーテクノロジーといわれるようになった。

とはいっても電池産業そのものは、それほど大きくはない。手許にある二次電池の世界の総生産高をみると、一九七五年ではほぼ一兆円であったものが、現在円ベースでみると2倍の二兆円程度と思わ

れる。勿論米ドルベースでいえば4倍の増加である。一次電池を含めた電池全体でもこの数値の50%増程度である。しかしそのなかにあって日本と日本の合弁会社が海外で生産している蓄電池の合計の世界に占める割合は、一九七五年当時14%であったものが、現在33%を越えている。その間、世界の電池メーカーの経営は大きく変化した。欧米のメーカーは、いわゆるM&Aの洗礼をうけて企業数が大巾に減少し、技術レベルの低下、散逸、新規投資の減少といった後退が起った。一方日本では安定した経済成長と厳しいユーザの要求、エレクトロニクス市場の急拡大に支えられて、特に新種電池を含めた小形の民生用蓄電池に限れば、一九七五年当時の25%から現在は70%を越える圧倒的に高いシェアをもつようになった。世界でも強い日本の電気産業の商品、そのなかでも特別に強い分野と考えられる。

このように電池は電気工業発達の萌芽期に大きい役割を果たしてきたが、今またこれからの新しい産業のなかで新しい役割をもつものと考えられる。そして特に日本の電池技術が世界に向って貢献することが求められており、若い技術者の関心と興味が、この分野へもむかうことを期待したい。

会員動向

第16期日本学術会議会員決定

人文社会、自然科学の学者で組織した、わが国の学界を代表する機関である日本学術会議の第16期会員が発表された。新会員は125人、任期3年間。7月22日首相から任命された。

第四部(理学系)

西島安則(京大名誉教授)

第五部(工学系)

西川禎一(京大工学部長)

京都大学創立百周年

記念事業について

京都大学は明治30年(1897年)に創立されましたので、後3年で百周年を迎えることになりました。京都大学が創立された19世紀末よりヨーロッパの新しい学問の流れを導入して、力強く成長し、多くの創造性に富んだ人材を世に送り出すと共に、独創的な研究を数多く生み出し、我が国を代表する学問の府として世界に広く知られるようになりました。この輝か

しい歴史を背景として、今後一層の発展を期するため百周年記念事業を行うことが決定されました。記念事業は大きく分けて3つの柱よりなっています。

第1は記念式典をはじめとするいくつかの記念行事であります。

とくに京都大学の進むべき方向を模索するための国際シンポジウムと苦難と栄光に充ちた百年の歴史を刊行すべく、編集が進んでいます。

第2は京都大学のシンボルともいえる時計台を再生して百周年記念館とする計画をしています。その費用は主として寄附によって賄

いたいと考えています。

第3に学生の国際交流制度を設けると共に、協定校などとの交流を行い、国際化時代にふさわしい人材を育成すべく、基金を作りた

いと考えています。

募金目標額60億円。何分にも大変大きい事業ですので、大学の構成員や卒業生の方々の協力なくして達成は困難であります。御支援、御協力をお願い致します。

平成6年6月21日

京都大学総長井村裕夫

京都大学百年史の編集に入っていますが皆様方の御協力を重ねてお願い致します。詳細は百年史編集史料室(内2651)まで御連絡下さい。

京大―阪大電気系教室
交歓スポーツ大会報告

恒例の京大―阪大電気系教室交歓スポーツ大会が、本年度は阪大主催で7月19日(火)午後に行なわれ、京大からは藤田教授、石川教授、荒木教授の3教室主任以下70名が参加しました。会場は例年通り関西電力(株)のご厚意により同社水無瀬体育施設をお借りしました。

今年7月上旬からすでに記録的な猛暑が始まっており、前日までは平年を5〜10度も上回る暑さが続いておりますが、当日は昼過ぎに通り雨もある曇り空のため比較的快適に競技が行なえました。

競技の結果は、

軟式野球 阪大6―7京大

ソフトボール 阪大16―3京大

テニス 阪大9―0京大

バレーボール 阪大1―2京大

卓球 阪大10―3京大

と残念ながら阪大の3勝2敗に終わりました。特にテニスは、いずれの試合も接戦続きながら全敗という結果で、来年の奮起が期待されます。

懇親会は阪大の周到な準備により最後まで料理がなくなり、ビールに至ってはほぼ半分が残る

という、この種のパーティとしては異例のサービスぶりです。選手一同の旺盛な食欲を十分に満たしたようです。メインイベントの優勝杯の授与と監督・選手のスピーチは、最初は整然と始まったものの、途中から勝ち負けを問わず優勝杯でのイッキ飲み大会、というワイルドなものになり、たいへんな盛り上がりの中に終了しました。

最後は次期開催校である京大を代表して荒木教授が挨拶され、再会を約して散会しました。

(昭51年卒、佐藤亨記)

支部総代会報告

九州支部役員改選通知

平成6年度九州支部総会において左記の通り役員の改選がありましたので通知致します。

記

支部長 昭27 上田保之(留任)

副支部長 昭29 前波 武(留任)

幹事 昭35 岡 範彦(新任)

昭38 眞栄城朝章(留任)

昭39 大内一紀(留任)

昭39 太田裕資(新任)

昭43 真部利応(留任)

平成6年度電気系教室

懇話会秋期大会と懇親

ビアパーティーのご案内

恒例の電気系教室の秋の懇話会を左記のように開催致します。各分野でご活躍の諸先輩のご講演に引き続きビアパーティーを予定しております。先輩各位にも多数ご参加頂けることを期待しております。

日時 10月24日(月)午後4時20分より

記

第1部 講演会(16:20〜17:20) 『音声・画像によるビューマン インターフェイス』

株式会社 東芝 関西研究所 所長 木戸出正継(昭43卒)氏

於・京都大学工学部電気総合館中 講義室

第2部 懇親ビアパーティー

(17:30〜19:00)

於・吉田(旧教養部)生協食堂

四国支部役員改選通知

平成6年度四国支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

- 支部長 昭22 船越孝夫(退任)
 昭28 近藤耕三(新任)
 副支部長 昭29 井上博文(新任)
 幹事 昭41 修川上 博(留任)
 昭41 森田 肇(留任)
 昭43 願化敏彦(留任)

東北支部役員改選通知

第29回東北支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

- 支部長 昭21 三上謹五(退任)
 昭34 大家 寛(新任)
 副支部長 昭37 伊藤貴康(新任)
 昭48 井上 茂(留任)
 幹事 平1 伊藤 篤(留任)
 昭6 宇野茂道(留任)
 昭7 山下 実(退任)
 昭8 川田孝吉(留任)
 昭14 内藤正義(新任)
 昭15 鈴木大左衛門(退任)
 昭21 阿部鉄郎(留任)
 昭53 下篠和俊(退任)
 昭48 井上 茂(留任)

総務幹事

- 昭48 井上 茂(留任)

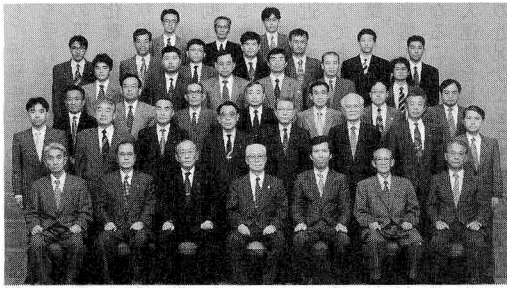
中国支部総会

平成6年度中国支部総会は5月27日(金)17時40分より広島全日空ホテルにおいて開催されました。

当日は本部から大谷会長、電気系教室から吉田先生をお迎えして、松谷支部長をはじめ39名が集まりました。

総会は支部長挨拶に続き、平成5年度会計報告、6年度活動方針ならびに予算案を審議し、いづれも満場一致で承認されました。

引き続き大谷会長からは最近の洛友会の状況を、吉田先生からは電気系教室を含む工学部や大学・



平成6年度洛友会中国支部総会 平成6年5月27日 於 広島全日空ホテル



大学院の状況をお聞かせ頂きました。皆、母校を懐かしく思い出しながら将来の姿に期待を膨らませています。

別室で記念写真を撮った後、懇親会へ移りました。潮見公安(昭8卒)先輩の乾杯の音頭が始まった会では歓談が続き、途中では逍遙の歌や琵琶湖周航の歌が飛び出すなど終始賑やかに過ごしました。

また今回は新・転入者4名中3名も出席されたこともあり、本当に楽しい一日となりました。午後8時過ぎ、なごりを惜しみつつ散会となりましたが、今回参加できなかった方々には是非とも来年度のご出席をお願い致します。

(昭和58年卒前田耕一記)



九州支部総会

6月3日(金)福岡市渡辺通りのホテルニューオータニ博多において、平成6年度洛友会九州支部総会が開催されました。

当日は本部から近藤副会長、教室から木村警根教授をお迎えし、主に北部九州の会員28名が参加しました。

総会は、まず立食パーティーで始まり、九州支部総会では恒例となりました上田支部長の「スライドによる郷土史紹介」、今回は佐賀県の史跡や電気学会を創設された工科大学校の第一回卒業生でわ

が国初の工学博士である志田林三郎氏にまつわるお話を紹介したもので、上田支部長の熱意と名解説に一同感銘をあらたにしました。

また近藤副会長、木村先生を囲んでの歓談、久しぶりに会う会員同士の交歓などなごやかに行われました。

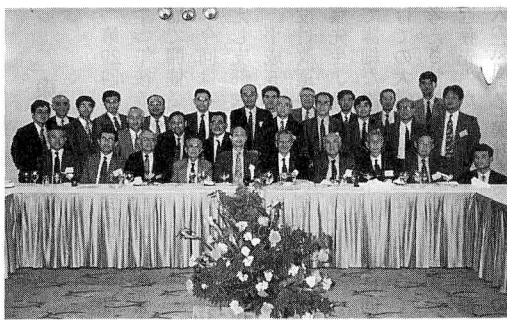
引き続き場所を変えて会食の懇談会に移り、近藤副会長から春の叙熱にまつわるお話や戦時中の京都大学を思い浮かべることができるとの当時の学生時代のお話など興味深いお話を拝聴し、木村先生からは工学部の改組、京都大学の将来構想と第3キャンパス問題について

など近況報告を承りました。また会員同士の歓談の合間を縫って総会議事の平成5年度会計報告ならびに平成6年度役員選出、平成6年度九州支部行事の提案があり、承認されました。

今回も横川京次氏、28卒福岡工業大学教授の長年にわたる単身赴任のお話や、異動により九州支部に戻ってこられた能見和司氏(54卒九州電力)の東京支部総会のお話など、各会員の皆さまの近況報告があり終始なごやかな雰囲気の中で大いに話がはずみました。

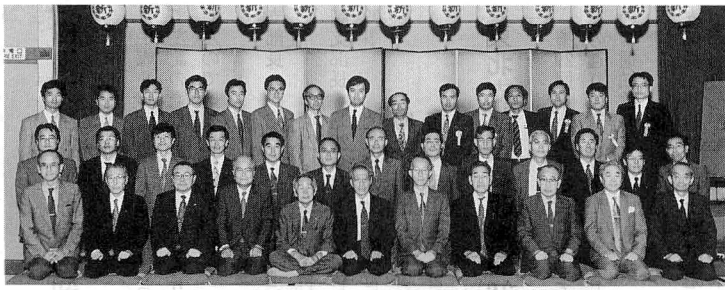
会も最高潮に盛り上がったところで残念ながら時間となり、今回の再会を誓って散会となりました。

(平成元年卒清水健二記)



四国支部総会

6月10日(金)高松市内の旅館新常磐において第39回洛友会四国支部総会が開催された。本部からは近藤副会長、教室からは上田教授の御出席をいただき、四国内からは42名の会員が集った。



第39回洛友会四国支部総会 平成6年6月10日 於 新常磐

総会は船越支部長の挨拶で始まり、平成不況の中で明るい話題と

して近藤先生が勲二等旭日重光章を受賞されたこと、昭和16年卒の平井滋二氏が第34回四国新聞文化賞を受賞されたことの紹介があり、出席者全員でお慶びを申し上げた。また大正15年卒の中家虎之助氏が本年4月に亡くなられたことが紹介された。

次に近藤先生より挨拶があり最近の洛友会費の納入率が60%を超えており、会員各位への感謝の言葉と共に今年の郵便料金値上げの影響により来年度は予算が苦しくなることが予想されるので会費納入運動をしたいということや先生の近況などをユーモアを交えて話された。また上田先生からは今年卒業者の就職状況や大学院の改組の話題について紹介があった。引き続き会務、会計報告、予算



案審議が行われ、その後支部役員改選が提案された。船越支部長が退任され、新役員には昭和28年卒の近藤耕三氏が支部長に、昭和29年卒の井上博文氏が副支部長にそれぞれ選ばれ新任役員挨拶の後無事総会は終了した。

引き続き懇親会に入り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合せた先輩や友人と酒を酌み交わしながらの談笑など楽しい一時を過ぎた。最後に全員が肩を組み恒例となった追送歌と琵琶湖周航の歌の合唱で懇親会を終了した。

その後近藤先生、上田先生をはじめ有志一同は街に繰り出し深夜まで電気工学談義に花を咲かせたり自慢の喉を披露しあった。

翌日上田先生は御都合により京都へお帰りになったが、近藤先生は四国に求められた折に足を運ばれている四国88ヶ所参拝に出発された。以下は近藤先生を御案内した服部敦美(昭42卒)先輩の同行記である。(昭和60年卒宮本喜弘記)

中部支部総会

中部支部の平成6年度総会は6月11日(土)16時から、名古屋駅前名鉄グランドホテル・アイリスの間で開催されました。本部・教室から大谷会長、奥村教授のご出席をいただき、支部からは大正13

年卒の大先輩初め80才以上の会員5名を含め17名が参加しました。大野支部長の挨拶の後議事に入りました。まず支部役員について、昨年に限り副支部長が1名となっていたが今年は昭和27年卒遠藤茂氏を追加し、他は全員留任とし原案どおり可決されました。

次に平成5年度事業および会計報告並びに平成6年度事業計画と予算案が一括してはかられ、満場一致可決されました。

総会について、大谷会長から本部総会の御報告と各支部の動きについてお話が、奥村教授から教室の近況、就職状況などについて詳細のご説明があり、懇親会に入りました。

懇親会では百才に後一步(97回誕生日をすまされた)の本多顧問の長生きの秘訣、そして今年も海外旅行をされたというお話に一同脱帽、さらに続く大先輩からも実に有意義な人生体験を伺いました。

続いて恒例の自己紹介と近況報告、懇親会は大いに盛り上がり予定時間を遙かにオーバーして散会しました。なお、中部支部の本年度事業予定は別掲のとおりです。奮ってご参加ください。(昭26卒石川 進記)

東北支部総会

第29回東北支部総会は7月2日(土)午後5時より仙台市の弥生会館で開催された。

今回は本部より近藤先生をお迎えし支部会員7名が出席した。

平成5年度の行事、会計報告、役員改選の後、懇親会に移り、近藤先生より大学改革の予定について詳細な説明があり、21世紀に向けての大学のありかた等について考えさせられた。また京都生まれの近藤先生から京都今昔物語や京都人の気風など興味あるお話に時のたつのも忘れ、迫る時間になりを惜しみつつ午後7時30分散会した。尚役員は左記の通り決定した。

- 支部長 大家 寛
 - 副支部長 伊藤貴康
 - 幹事 井上 茂 伊藤 篤
 - 評議員 川守田孝吉 阿部鉄郎 宇野茂道 内藤正義
- (昭和21卒三上謹五記)

電気工学講習所

創立80年記念と

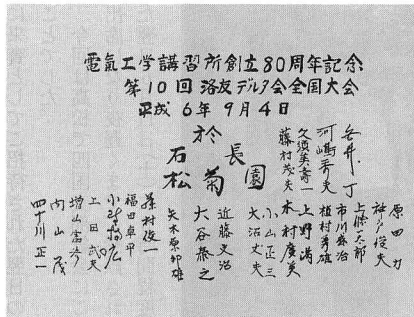
第10回洛友デルタ会総会

今年は大正3年(1914)1月に創立された、電気工学講習所の創立80周年記念と、2年毎に開かれ

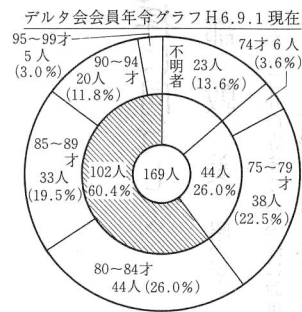


る第10回洛友デルタ会総会とを併せて、平成6年9月4日(日)に石長松菊園(京都市中京区)にて行った。当日定刻の午後0時30分に全員22名が集会した。総会に先立ち故関野弥三先生の法要を行うため、上京区の曹洞宗無学寺へと向った。法要も滞りなく終り、再び会場の石長松菊園に帰った。(故関野先生の法要は昭和44年11月23日、南禅寺天授庵にて、鳥養先生、上西先生のご臨席を得て7回忌を行ない、昭和56年7月12日、無学寺にて

有志による追悼法要が行われた。



総会は定刻3時に、司会者大沼文夫氏(昭15卒)司会のもとに開会。大沼文夫氏の開会の辞に続き、今は無き恩師並びに全員に対し哀悼とご冥福を祈り黙祷を捧げた。続いて、藤村俊一氏(昭11卒)代表より会員の老令化に伴い総会への出席者の減少と会員の減少が進むので健康に留意されるようにと挨拶された。その後、幹事長神戸俊夫氏(昭14卒)から第9回総会後の経過報告があり、会員の卒業年度と生年月日は別表の如くで、80才以上が60%となり老令化が進んでいる。これらのことを考慮して第9回の総会において提案した基金の一部(50万円)を洛友会基金に寄贈する件は、全員一致で承認された。今後の総会の運営については、その都度出席者の確認を以って行な



うことになった。次に、平成4年度、5年度の会計報告を市川盛治氏(昭13卒)から、また同監査報告を神戸幹事長湯浅幸雄氏病氣のため代行)から行われた。これらに対して出席者一同承認された。総会は午後4時無事終了した。午後4時30分よりの懇親会に先立ち、来賓の大谷洛友会会長、近藤洛友会副会長、矢木原洛友会常任幹事を中心に記念撮影を行なった。(写真参照)

上野満氏(昭15卒)の司会で、開宴の挨拶に続き、大谷先生、近藤先生、矢木原常任幹事の祝辞を載き、岩本國三氏(昭11卒)の音頭で一同乾杯して、いよいよ開宴。会するもの大正15年卒を筆頭に昭和15年卒までの22名、酒もほどほどに酔を發して年令を忘れ、過ぎし青春時代にもどり、苦しかったことを、楽しかったこと、時のたつのを忘れて歓談に花が咲く。午後7時名残はつきないが閉会を清水



第十回 洛友デルタ会 平成6年9月4日 於 京都 石長松菊園

寿栄次氏(昭5卒)に告げて載き散会した。(幹事長神戸俊夫記)

後者右から四十川正一、小野楠吹、植村秀雄、小山正三、藤村茂夫、木村広美、市川盛治、上野満、岩本國三

中列右から大沼文夫、神戸俊夫、上条一郎、原田力、河島秀雄、増山富彦、久須美寿一、上田武夫、前列右から内山茂、清水寿栄次、福田卓平、矢木原邦雄、大谷先生、近藤先生、藤村俊一、白井丁

各支部行事(予告)

- 一、九州支部行事
 - 昼食会 平成6年11月30日(水)
 - 平成7年2月22日(水)
- 場所 『ロビィSA・AN』
- 三和ビル地下一階
- 福岡市中央区天神1-10-10
- TEL 092-712-4608
- 会費 二〇〇〇円
- (遠方の方は無料)

関西支部行事のご案内

家族見学会
恒例の家族見学会を左記の要領で開催いたします。ご家族共々奮ってご参加ください。

いま関西が新しい・注目すべき施設が続々誕生していますが、今回は4月にオープンしたATC、9月に開港した関空を見学する企画です。

- 日時 10月30日(日)
- 行先 アジア太平洋トレードセンター(ATC)、関西国際空港、見学
- 集合場所 JR京都駅八条口 8時
- JR大阪駅ホテル阪神
- 9時
- 参加費用 大人 5000円
- 小人 2500円
- 参加費は当日頂きます
- ご案内の往復ハガキは送付済です

連絡先、日本電池(株)電源システム事業部技術部尾村まで
TEL 075-316-3064

関西支部長 寿栄松憲昭

支部だより

第61回関西支部会

ゴルフ競技会報告

森 望 (昭61卒)

第61回関西支部ゴルフ競技会は、平成6年5月8日(日)武庫の台ゴルフ場にて開催された。

当日は快晴で、参加者は加藤孝一氏、西村正太郎氏(昭16卒)をはじめ大嶋幸一副会長(昭19卒)、藤島啓支部長(昭25卒)の参加を得て、総員35名で競技した。

結果は

優勝 岡田隆夫(昭30卒)

2位 潮崎安弘(昭33卒)

3位 和田 治(昭38卒)

で、岡田隆夫先生はクロスで81、ベスコロの好成績で優勝された。またグランドシニア杯は、

優勝 藤島 啓(昭25卒)

2位 大嶋幸一(昭19卒)

でした。

ゴルフ競技会は恒例で毎年2回武庫之台ゴルフ場で開催しております。多数のご参加を歓迎しております。

連絡先関西電力(株)電力システム室(06-446-16368)森まで

会員寄稿

近藤文治先生の
四国巡拝に同行して

服部 敦美 (昭42卒)

身近な人が亡くなり深い悲しみとこの世の無常を改めて知ったりするときは四国88ヶ所を巡拝するお遍路さんになる心を理解すると思います。

昨年3月14日(日)に近藤先生の阿波23ヶ寺巡拝の初回として第一番霊山寺から第十番切幡寺までを一緒に巡りました。鳴門に近い阿讃山地南側に連なっている札所です。それは丁度徳島大学工学部小林邦博教授の停年退官記念行事に来賓としてご招待された翌日のことでした。

今回は高松で四国支部総会にご出席になり夜遅くまでご懇談された翌日6月11日(土)に6時間程度



をかけた井戸寺までの巡拝にお供しました。徳島市に近く比較的時間とまっている七ヶ寺です。

午前10時30分J徳島駅前の一停停車許可区域で待っていると近藤先生の姿が陽射しを受けた歩道に見えたとき15ヶ月ぶりの再会に懐かしく思いました。

コースを確認して直ちに吉野川沿いに堤防道路を西へとつて第11番へ向かいました。梅雨に入ってもなくで時に陽射しはあるものの山々はもやのかすんでいます。このとき先生から以前に近藤研の秘書をつとめた田中早苗さん(院生たちはナミちゃんと呼んでいた)が2人の子供を残して病気で亡くなったと聞かされました。

まだ若いのに。また当地とご縁としては三高のとき先生の保證教授であった地質学の江原先生が当地で調査をした記念の碑をごらんになったことがあるそうです。吉野川北岸に沿って中央構造線が走り珍しい土柱もあります。調査は土柱に関するものかも知れません。

さてこの吉野川下流に注ぐ鮎喰川の河原は江戸時代には百姓一揆の指導者たちが処刑されたり幕末には徳島藩が大砲の試射をしたりした所です。道路を北へ一筋間違えたため鳴島町の藤井寺に着いたのは11時半でした。参道を歩いているときふと先生がおっしゃる。

「民宿の広告が多いな。」

第11番藤井寺(本尊薬師如来)。

線香を焚きろうそくを灯し本堂で拝みます。(写真参照)そして大師堂で拝みます。納経所では納経帳に記帳してもらいます。先生は納経帳を2冊出されました。山門にはY形にバランス良く伸びるイチョウ。「このシャクナゲのような葉をしているのは何かな。」これは一日後には白い大輪の花がポツポツと咲いておりタイサンボク(北アメリカ原産)と判りました。

次から次と白い装束のお遍路さんが山門をくぐって行きます。「今はお遍路の季節ではないのかな。」駐車場にはマイクロボスはなく乗用車ばかりでした。

藤井寺から焼山寺へ梨ノ木峠を越えるコースは高低差があり短いカーブが多い。神山町というと邪馬台国の阿波説がありますが幻のままです。一面緑に覆われた山中を行くと白いクリの花が鮮やかでした。「中学一年のときだった。」

朝教練で整理していたとき室戸台風で寮の建物が倒れた。建物の北側にいたので危うく下敷きになるところだった。」理科年表によると室戸台風は昭和9年9月20、21日に九州から東北特に大阪を襲い死者不明者が三千人を越したという。先生の室戸台風体験は9月21日の事だったでしょう。

「案内標識が十分でない所もあるけれど道路は割合整備されているな。」歩くとき大変だったな、昔の人は。これだけで一日行程だろう。」予定より時間がずれ込んだので12時40分頃神山町神領の食堂で昼食をとりました。焼山山(標高938米)にかかるきつい坂道をセカンドギアで登りました。

第12番焼山寺(虚空蔵菩薩本堂。大師堂。納経所。納経帳が積み上げてありドライヤーをかける人もいました。「遠い所だから頼まれたものだろう。」コウヤマキのそばで山々の緑を背景に先生の写真を撮らせていただきました。境内の外れに神社があった。神仏習合の名残と思われる。「昔神社とお寺の間がしっくり行かなかったの

で融合させる必要があったのだろう。」京都は嵐山に虚空蔵菩薩のお寺の境内に電電宮という神社がある。大空、雷、電気現象の神をまつる神社が昔からあったが江戸

末期の兵火で焼けていたのを昭和31年に郵政大臣や電気業界の人達が復興再建した。そのとき同時にヘルツとエジソンの碑も立てられたという。参道の並木は杉の大木で中でも2本の杉は見事だったので先生の写真を撮らせていただきました。ウグイスがさえずった。14時40分下山を始め途中で衛門三郎伝説の杖杖庵に立ち寄りしました。

「車の中で気分が悪いときどうしたらいいだろうか。」子供の頃からバスに弱かった私は経験則から窓を開けて空気を取り入れる、腹部を締め付けない、体を仰向き水平にして寝るとましの筈などとお答えし先生にはリクライニングを使っていたいただきました。

第13番大日寺(十一面観世音)。本堂。大師堂。納経所で記帳役のご婦人が尋ねています。「遠くからお見えですか。」「京都から。」「ゆっくりまわられるとよろしいかと思いません。境内には苔むした幹がクスノキに似て枝振りが端正な樹があった。ご婦人に聞くと神社に多いオガタマノキという。近くの沿道にはアジサイとガクアジサイが今を盛りと咲いていた。

第14番常楽寺(弥勒菩薩)。本堂。大師堂。山門には金剛力士像。参道近くの小さい池の岸辺に白い羽根と黄色い嘴のアヒルが一羽いた。参道は岩山を削ってできたような

独特なものだったし境内の流水岩の庭は雨水の浸食で室戸阿南海岸の漣痕のようだった。闇夜だと明かりなしには歩けないだろう。杉に似た樹の放射状に枝分かれした所に鎮座していたのはあらざ大師とあつた。後日納経所のご婦人に聞くとその樹はイチイ(あらざぎ)という。鐘楼で先生が鐘を一突きされた。辺りは小山の上で静かなので鐘の音がよく響きました。本堂の前にはあちこちに布きれを何重にも取り付けて人々の願いがこめられています。

第15番国分寺(薬師如来)。本堂。大師堂。納経所で先生が尋ねます「国分寺という名のお寺は香川にもあつた。いくつもあるのですか。」「四国四ヶ国にそれぞれ国分寺がございます。」「平地にあり境内はスッキリ見通しのよい感じで賽銭箱の形もどこか変わっていた。他のお遍路さんが「5時までしかしてくれないから急ごう。」とささやき合うのが聞こえた。

第16番観音寺(千手観音)。時間が心配なので先に納経所へ足を運ばれた。本堂。大師堂。他と対照的に新しく造られた感じの水子地蔵がありました。

第17番井戸寺(七仏薬師如来)。既に5時を過ぎていたので納経所へ急いだ所待つ間もなく帳帳をしてくれました。本堂。大師堂。こ

こは避雷針が目を引きます。本堂には屋根の中央付近から2メートル程突き出したものが大師堂や国宝殿の脇にはそれぞれ建物から離れて垂直に10メートルを越す避雷針が設置されています。「広い範囲をカバーするには高いほどよい。」「桂離宮では棟の上に小さな避雷針を設けることしか許されなかつたので困つた。」「山門内側部には「四国一の大わらじ長さ5.2メートル幅1.5メートル重さ700キロ」と説明書きされたわらじを立ててあります。「お遍路すればこれだけわらじを使うということだろうか。」「山門外側部には金剛力士像が立っています。」「手入れがよくできているみたい。」「

こうして今回予定していた巡拝は幸いにも全部終了しました。ここで5時半となつたので船便は2時間ずらすことになりました。新しい埋め立て地にオープンしたばかりの沖ノ洲マリナーミナルで切符を求め座席指定の確認をされる。出航までの時間を利用して近くのレストランで夕食をとることになりました。植え込みのどこかでクチナシの芳香がした。

7時40分発の高速船で帰途につかれる先生を桟橋でお見送りしました。深夜になってご自宅にお電話していつものお声を聞きほつとした次第でした。残りの阿波路の

巡拝はまた先になりそうだけれど今回はルート選びにもう少し気を付けたいと思います。なおこの同行記は四国支部幹事

ヨーロッパツアー(Ⅲ)

吉田芳正(昭24卒)

願化敏彦氏(昭43卒)のご提案に込めて作成致しました。お世話いただいたことを感謝する次第です。

フランス新幹線は前半山の中を走る。途中左の川にLAINの標識を見る。ライン川はRHINEである。何処を走っているのか見当がつかない。後半は平野である。右にあった山も消え全く平である。平野の中に森がある。隠れた所のこの国の歴史は如何。フランスの麦は背が低く密着しているように見える。子牛の群れも見た。トイレの前で幼稚園児引率の先生(We have fifteen minutes)の側でWe have fifteen minutes(パリまであと15分)と言つたらドライバーティーンとか言う言葉が返ってきた。降りた所はパリ、リヨン駅。迎えるのバスの中に南佛出身のガイドさんがいた。日本にも東京、筑波の大学、大学院に合計4年程いて日本語は流暢である。合間合間にフランスの歴史にもふれる。補足してまゝとると、

始めフランスにはイギリス南部と同じケルイ人が住んでいた。ついでローマ帝国(100-500)に支配される。400年以降ゲルマン人の侵入が激しくなり東方へ宇回してギリシャ、イタリア北部を経てピレネー北部に達したものの、ドイツ、フランス經由でスペインへ達したもの、その後一団のノース・メンがフランス各地を襲つた後フランク王(500-900)の許しを得てセーヌ川口に定住(912)離婚したものがある。その子孫であるノルマンディ公ウイリアムが英国を征服(1066)し英国王となつたのでノルマンディが英国王の支配下になる。以後フランス王と英国王の対立時代(1100-1350)を経て百年戦争(1350-1450)フランスがフランス王支配と英国領に分割される。火薬の発明がフランスに有利に働き結着がつき統一フランスへと歩む。一七〇〇以後は海外での対英時代。

文化的に見ると十字軍(一一〇〇-一二〇〇)の遠征で紙、アラビア数字が入り、更にギリシャ、

ローマの文化(数学、天文学、地理、家庭生活豊かに)が入りゴシック様式(一五〇一―一三三〇)、大学の創設、経済の発展、古典の編集(ルイ九世へと続く。百年戦争が終る(二四五〇)と統一国家の基礎づくりのルイ11世。ルネッサンス。フランス文化の黄金時代のルイ14世。ベルサイユ宮殿(一六六四―一七一五)。海外発展の時期へと続く。思えば150年250年の文化発展の時期を除いて長い争いの歴史である。フランス中部を流れるロアール川を渡られた時が、フランスの危機であると言う。

それとなくフランス式にガイドすると言う。感性に訴えるやり方が途中できれいなフランス音楽を聞かせてくれる。ラ・マルセーユもその中に入っていた。ローレライの時といふ身体に染みとほる。アンバリット、緑色の丸い屋根に金のアクセサリが殊の外きれいである。エッフェル塔も写真より実物の方がずっと良い。太いアンゲルと四つにふん張った姿は半円形の大きな空間をつくり威風堂々安定感がある。凱旋門のところであったか、ここにはフランスが勝った戦の名はすべて記してあるが負けた戦の名は記していないと言う。ルーブル博物館(二〇〇一―一四五〇)はベルサイユ宮殿の前に宮殿として使われていた。(一六七

頃まで)日本の鎌倉、足利時代に250年かけて作られた。同じ時期に作られたものにゴシック様式のノートルダム寺院がある。パリはシテイ島から発展したとか。そこにノートルダム寺院(一六三―一三五〇)がある。内部は柱一本ない大きな空間である。外から見ると天に伸びる鋭三角形の屋根、縦の線、上で交るアーチ型の窓、壁を汚さないように長い雨樋が一米以上も突き出ている動物の顔の形をしている。外壁等に人物像が配されている。壁を構成する一枚一枚の石に装飾が施こされている。当時は人工的な大空間を作ることが一つのテーマであったに違いない。アーチというアイデアを発見して200年50年かけて大空間を作り上げた古代フランス精神を読み取ることができる。京都奈良の大きな古代建築と像に対比してみる。ルーブル博物館でモナリザの解釈、殺伐たぬ自然を背景にこの自然を征服する人間の意志を秘めたもの。ルネッサンスの源か(一五〇〇)。ミロのビーナスの解釈、他のビーナスには腰が太く三段腹のものもあり、このビーナスも顔が小さすぎ、腰は太すぎる。

注1、東地中海ミロ島で一八二〇年頃発見された。古代オリエント地方(セム族)の豊饒と繁殖の女神の内容をもつ。

注2、ルーブル博物館長ジャン・シャトランの言葉(一九六四)、ミロのビーナスは人類の感性発達史における一段階を特徴づける希な傑作である。ミロのビーナスを展示するのは人類が自らをよりよく知り、よりよく理解する手助けをすることである。真の文化はただ一つ。

他の社会の文化をただ珍しく美しいとしか見ようとしなないのは分割孤立社会の古い見方。魂なき技術に見とれて踏みつづされないように主要な諸文化のさまざまな要素を総合し集成するのだければ人工に墮する。

翌日のガイドさんはイタリヤ出身。京都出身でパリに勉強に来ていた女性と仲が良いと言う。

- ①ホテルの名ホール・シレー・ラ・ピネットは覚えておくこと。
 - ②一番近くの地下鉄の駅はポルト・ラ・レ・ピレット
 - ③地下鉄で帰るときは先行7番線ラ・コルネに乘ること。
 - ④地下鉄の出口はツオルチー、乗替はクオレスポンドンスを目印に歩けばよい。
- 以上が街に出かける時最小限覚えておくべきフランス語であると言う。街に出かけて日本人店員のいる店でホテル名を聞かれて、とっさにホール・シレー・ラ・ピネットと言ったら、それはホレスト・

ヒル・ラ・ピレットですと教えてくれた。地下鉄の駅名にスターリン・グラートというのがあった。第二次大戦記念のものであらうか。市内観光の後プロニーユの森近くのレストランで食事、終つてレストランを出るとき緑のワンピースに金髪ホステスのメルシに送られて出る。昨日のアンバリットといふ金と緑の配色の美しさ。金閣寺ではそれも思わなかったが。これから行くベルサイユ宮殿は特に建物の装飾が桃色に近い薄い茶色になっており実に金色に調和する。建物の前の庭のずっとセーヌ川までとどく広さはすばらしいものである。フランス王室の色は青と白。花壇には青い花と白い花が咲いている。優雅である。ベルサイユ宮殿内部の豪華さは私には説明できない。説明すると私の今までの書いた文章が全部吹っ飛んでしまう。この建物自体はルネッサンス以後一七〇〇年代に発達した口ココ様式であると聞いた。

バトー・ムッシュ(ボートに乗ってハエのように飛び回る意味か)というのがあつて夕方セーヌ川をのぼりシテイ島を一周して帰ってくる。一番古い橋を始めいくつかの橋の由来、両岸にある建物の説明を聞く。オーランジュリ、ルーブル、ノートルダム、オルセー等の名もでてくる。英語、ドイツ

語等にまじつて日本語の説明もある。我々はボートの上甲板前の方に座っていたが、更に我々の前に座っていたのがオランダから来た男女の高校生たち元気がいい。岸のアベックに大きな声で叫んだり橋の下をくぐる時大きな声を出したり、お互ハシヤイだり隣の仲間の女子高生にしばしば両手の上から絡みついたりもう少し発達するとジュネーブで見たスタイルになるのか。日本の学生よりアケスケに表現する。いういふ自由な表現は気持悪くない。下船して帰りがけに我々に手を振ってくれる。我々のグループの英語の達者な人が話しかけた。私も大きく手を振つて元気な若者たちに別れを告げた。

翌日地下鉄でシテイ島に行く。この橋は天然の石で作つてある。石の中に貝殻を含んでいる。橋の一部通路の脇で六疊位の休憩できる所がある。そこで一服しながら岸の建物に見入る。セーヌ川に沿つて下っていくとチュルリ公園がある。大きな公園を通つて行くと、ほぼ中程に茶店があつて一盛になつている。サンドイッチと飲物で昼をすませオーランジュリ美術館に入る。有名なモネの睡蓮がある。壁画20面程に相当する大作である。モネは何を表現しようとしたのであらうか空間、時間、生命。日本人から見るとロンドンもミ

エンヘンもバリも交通信号は日本程厳密に守られていない。皆で渡ればこわくない式で赤になっても渡っている。フランスでは信号は車のためにあると聞いた。歩行者用信号はない。小さい道では車の信号の赤を横目にみて安心して渡っていく。感心するのは車の方が日本よりずっと礼儀正しいことである。歩行者様がお通りになるまでじっと我慢して待っている。安全を見越してから動き出す。日本のように早く渡れ、忙げを強制する命令的なブーブーを聞かない。法は人命尊重(人権)のためにある。人命尊重に堪えない法はその時守らなくてもよいのである。(違法駐車に際し道路を二階建にして下を駐車場にするのを考えないで、人間を取り締まるのは我国のやり方。ロンドンでは日本よりずっと交通量が少ないのにこの工事が行われていた。)

フランスでは信号は車を拘束するためのものである、と言うテーマから人と車の分離というテーマに進んでいる。200年300年後に実現するに違いない。大きな空間を創るというテーマのもとにゴシック建築がその役割を果たしたように。(酸素の要らない車がその役割を担うかも知れない。)

以上

多言語マスター体験

本田忠宏 (昭39卒)

多言語を理解出来たり会話が出来たら如何に楽しいか、私は経験した。英語はビジネス上、読み書き、会話とも日本語よりは少し不自由かなという外に、中国語、フランス語を話し、他にドイツ語、スペイン語を学び、アラビア語、ハンガール、ロシア語をかじったりした。

一方で、私は卒業後、鉄鋼システム、即ち圧延機用電機品のエンジニアとしてシステムのエンジニアリングも設計も、開発とシミュレーションも、国内も海外も、そして海外は国際コンソーシアムを組むほどの大型プロジェクトの受注活動と受注後の顧客との詳細仕様打ち合わせと、さらに国際調達まで幅広く仕事をする機会に恵まれた。海外には約30回出張し、通算滞在日数は約3年に及んでいる。その間約30ヶ国を訪問した。海外出張の場合、ほとんど一人で出張し、多くの外国人エンジニアと付き合い、意気投合し、どの国に行

っても誰とでもその国の言葉で話そうとし、一般の人達とも友好関係を築くことが出来た。

ヨーロッパの一流エンジニアは当然の如く多言語を話す。そこで私は如何にして英語を初めとする多言語を学習したか、まず、英語では相手の言っていることがよく聞き取れなかった時の確認の仕方、顧客にプレゼンテーションする時の話の進め方など、ついで中国語では、特に日本語と意味の異なる漢字、三国志の登場人物及び日本人の名字の中国語読み、フランス語では漢字の数え方のおもしろさ、さらにハンガールの読み方に力を入れた。詳細は左記の本を参照してください。

日立エンジニアの多言語マスター体験
初版発行 94年7月20日
定 価 1500円
発行所 リーベル出版
TEL 03-234-1368
本書はこれから社会に出て活躍せんとする理工系の学生、すでに社会人になっている若いエンジニア、さらにはまだまだ意欲のある中高年のエンジニアに対し参考になると思います。



居所不明者一覽表 平成6年9月15日現在

洛友会会報を全会員に発送致しておりますが、居所不明で3回以上連続して返送されて来る会員名を一覧表に記載致しました。

当該会員の卒業年・勤務先を記載しておりますので、同一勤務先の方、同期の方、ご消息をご存知の方はお手数ですが事務局までご連絡を賜りますよう、ご協力お願い致します。

今回の掲載以後なお不明の場合は居所不明者として登録致します。

卒業年	氏 名	元 勤 務 先	卒業年	氏 名	元 勤 務 先
講大12	田 島 徳 重		昭56	関 谷 隆 司	出光興産
講昭15	神 足 陽 太 郎		56	堀 堀 仁 孝	日本電気
昭29	市 川 秋 司	川鉄電磁鋼板	56修	今 井 一 肇	宇宙開発事業団
37	堀 北 隆 司	新日本製鐵	57修	川 井 上 肇	日本電気
42	上 田 村 徹 彦	富士通	57	岡 本 昌 道	シャープ
43	浅 田 佳 正	通産省工業技術院	57	浦 井 道 敏	富士通
47修	小 川 哲 生	日本電信電話	58	大 金 原 上	日本電気
50	小 松 浦 道 明	ソニーテクトロニクス	59	田 田 孝 平	沖電気
50修	小 嶋 司 郎	日本電信電話	59修	三 宅 了 憲	
52	小 吉 田 健 児	新日本製鐵	60	松 本 富 昭	住友銀行
53	加 山 藤 敏	富士ゼロックス	60	新 本 富 二	日本モトローラ
54	山 藤 本 敬	運輸省	60	新 岩 本 健	住友電気
55	加 山 恭 正	日立製作所	61	河 村 研 一	ソニー
55修	藤 原 純	通商産業省	61		

事務局だより

各地区の会員の皆様へ

洛友会支部へのご連絡は次のとおりへ。

○北海道支部

池内義則支部長宅

〒063札幌市西区西野六条1-5

TEL 011-661-8245

1-3

○東北支部

東北電力(株)女川原子力発電所

保修課

〒986-22宮城県牡鹿郡女川町塚浜

宮前田

TEL 0225-54-4963

FAX 0225-54-4379

○東京支部

パイオニア(株)研究開発本部総研

横川文彦幹事

〒350-02鶴ヶ島市富士見6-1

1-6

TEL 0492-87-3900

FAX 0492-79-1512

○中部支部

(株)FM愛知内 前原恒之幹事

〒460名古屋市中区千代田2-15

1-18

TEL 052-263-5141

FAX 052-241-9359

○北陸支部

北陸電力(株)系統運用部給電課内

白江孝俊幹事

〒930富士市牛島町15-1

TEL 076-441-2511

FAX 076-433-9979

○関西支部

日本電池(株)電源システム事業部

和田治幹事

〒601京都市南区吉祥院西ノ庄猪

之馬場町1

TEL 075-316-3057

FAX 075-316-3062

○四国支部

四国電力(株)火力運営課内

願化敏彦幹事

〒760高松市丸の内2-5

TEL 087-821-5061

FAX 087-825-3015

○中国支部

中国電力(株)工務部内

牧征滋幹事

〒730広島市中区小町4-33

TEL 082-241-0211

FAX 082-246-8027

○九州支部

九州電力(株)企画部内

真栄城朝章幹事

〒810福岡市中央区渡辺通2-1

1-82

TEL 092-761-3031

FAX 092-733-1435

○本部事務局

(財)応用科学研究所内

矢木原邦雄事務局長

〒606京都市左京区田中大堰町49

TEL 075-701-3164

FAX 075-701-1217

以上

編集後記

秋晴快適の季節となりました。昨年は長期梅雨で冷夏と騒がれ、今年は逆に少雨水不足、その上猛暑、気温が30度を越える真夏日が長かった。やっと秋本番快適になりました。

本10月号の巻頭言は関西支部長、日本電池(株)取締役会長寿栄松憲昭氏(昭26年卒)にお願い致しました。『電池と電気』電池のお話と電気を溜める技術開発、よくわかりました。ご多忙のところ有難

とうございました。

支部総会報告が本号になりました。今年の総会は北陸、北海道支部を除いた7支部と洛友デルタ会の総会がありました。役員改選等7月号に本部、関西、東京、中部、本10月号に九州、四国、東北支部の新役員が通知されました。各支部総会の報告と共に参照ください。秋期には各支部で家族同伴見学会など、また同窓会開催のご案内があります。交流の場でもあります、ぜひ参加してください。

各支部へのご連絡は一部連絡先が変更されています。事務局だよりに記載しました。各種のご連絡をください。

今般、会員の居所不明者の一覧を記載しました。ご消息をご存知の方は本部事務局までご連絡願います。

(事務局長矢木原邦雄記)



訃報

大12	羽村一喜男	6.8.13
講大12	林朝吉	6.7.21
講大15	中家虎之助	6.4.25
昭3	小池恒久	4.2.16
昭5	横田清一郎	6.8.30
昭7	富満通哉	5.7.23
昭8	田井梁之	
講昭8	田中哲夫	5.2.9
昭9	吉田辰雄	6.8.23
昭10	小林大祐	6.8.21
講昭10	堀口正樹	6.8.5
講昭13	初田清	5.9.23
昭14	笹谷昌男	5.10.18
昭16	小穴正一郎	6.2.19
昭17	村上勤	6.5.3
昭19	松本登	6.6.22
昭29	長谷川利安	5.12.22
昭58	宮内公美	6.6.11
昭59	大利和明	6.4.10

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。